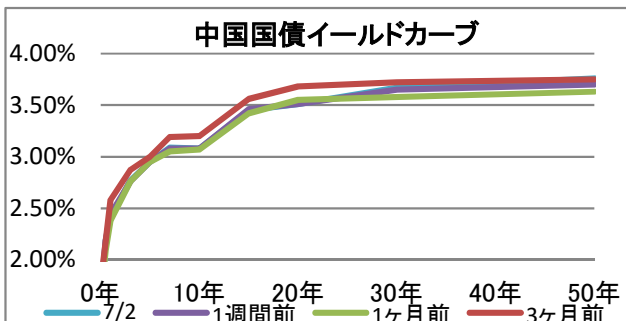
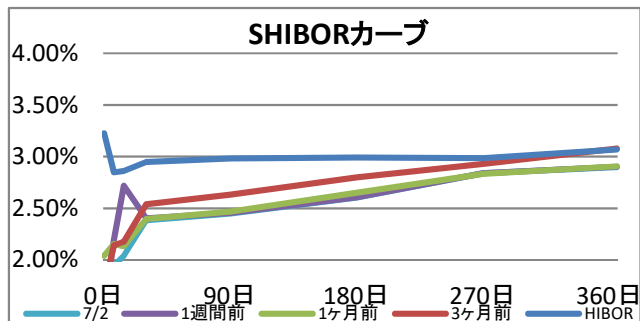


①市場概況

基準レート		2021/7/2	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.4712	-0.0032
	JPY/CNY	5.7991	-0.0390
SHIBOR	3M	2.4490%	-0.0070%
国債利回り	10年	3.08%	+0.00%
上海総合指数		3,518.76	-88.80



(1) 概況

欧米での新型コロナウイルスワクチン接種拡大により経済活動が拡大する一方、スポーツ観戦や変異種による感染の再拡大が確認される状況になったことや米国の金融政策を占う雇用統計を週末に控えていたことから、世界的に金融市場の値動きは小幅なものとなった。注目された米雇用統計は、新規雇用者増加数は前月を上回ったものの失業率が上昇に転じる等、金融緩和政策転換懸念を拡大させる内容ではなかったことから、株、債券ともに安定が維持される結果となった。

中国金融市場では、四半期となる月末後に共産党結党100周年を控えて週前半は小動きに終始し、記念式典後の週後半になっても高揚感に乏しく総じて小動きとなる中、株式市場は外需への懸念から下落に転じている。

中国共産党100周年式典での習主席の演説は、アヘン戦争以降の中国の困難な歴史を振り返り共産党の貢献を称え、協調はするが指図は受けないとニュアンスを含むものとなった。FITCHは中国の格付けをA+に維持（対外債権規模、マクロ経済状況の安定、世界第2位の経済規模を評価）し、IMFは第1四半期の世界の外貨準備における中国人民元の比率が2.2%から2.4%に高まっていること、副専務理事に中国人民銀行の李副総裁が就任することを発表。債券通における6月の1日平均取引額は305億元に達して過去最高を更新し、香港財務長官は香港でのデジタル人民元の実証実験推進について改めて言及している。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、四半期末となる6月末を含む週のリバースオペ期日900億元に対し、6月末までは新規リバースオペ300億元/日を実施し、7月に入り需給が安定すると新規リバースオペのペースを100億元/日に戻して、差し引き200億元を供給している。

(3) 主な経済指標

- ・国家統計局のPMI（6月）は、製造業50.9（5月51.0）、非製造業53.5（同55.2）、総合52.3（同54.3）とやや減速。製造業では生産水準が、非製造業では水準は高いながらも全てのサブインデックスが低下して特に新規受注は50を下回る状況となっている。雇用指数は製造業では低下、非製造業では上昇する区々の結果ながらいずれも水準は50を下回った状況で、価格指数は大幅に低下している。

- ・財新製造業PMI（6月）は、51.3（5月52.0）と14ヶ月連続で50を上回ったものの、新規受注は3ヶ月来の、生産は15ヶ月来の低水準。雇用指数は2013年1月以来の水準に上昇する一方、価格指数は7ヶ月ぶりの水準に低下している。

②資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.6140%	1.6300%	1.4000%	
1W	1.9450%	2.2000%	2.0000%	1.9000%
2W	2.0410%	2.1000%	6.5000%	1.9000%
1M	2.3850%	2.6000%	2.9000%	2.2000%
3M	2.4490%	4.5000%	2.5000%	2.2500%
6M	2.6050%	2.8200%		2.7200%
9M	2.8410%			2.8200%
12M	2.8990%			2.8500%

中国人民銀行はリバースオペを若干増額させる対応で四半期末となる月末を難なく乗り切り、7月に入り資金需給が余剰となって金利水準が低下するとリバースオペを100億元/日に縮小している。ターム物は1ヶ月の2.2%台での出合いを除き限定的。

NCDは、6月末までは金利水準が上昇していたものの、7月に入り足下の資金需給が改善すると低下に転じる動きとなる活発な取引が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.1%台、3ヶ月物は2.2%前後、6ヶ月が2.7%前後、1年が2.8%台での取引となっている。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	0.04%	0.05%
1W	0.05%	0.06%
1M	0.10%	0.13%
3M	0.23%	0.25%
6M	0.30%	0.35%
12M	0.50%	0.55%

資金需給は均衡から7月に入って余剰に転じており、ターム物の金利水準は、1ヶ月は0.10%前後、3ヶ月は0.25%以下に低下している。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.86%	2.07%	2.44%	2.65%	3.15%
6M	2.19%	2.34%	2.59%	2.76%	3.26%
1Y	2.40%	2.49%	2.80%	2.91%	3.41%
3Y	2.77%	2.95%	3.17%	3.35%	3.98%
5Y	2.95%	3.18%	3.47%	3.59%	4.42%
10Y	3.08%	3.40%	3.82%	3.91%	4.77%

債券市場では、四半期末を挟んで短期資金需給を映じて短期債利回りが大きく動いたものの、中長期については四半期末要因に加えて債券需給の改善や減速を示す経済指標から限定的な値動きに終始した。

イールドカーブは、7月に入り短期資金需給の改善により利回りが全体的に低下する中、6月末までやや大幅に上昇していた短期国債の利回りが低下に転じたことからスティーピングに転じており、クレジットスプレッドは短期では国債の利回り低下により拡大する一方で、中長期では信用債利回りの低下により縮小している。

④先物為替市場

	USD / CNY
1W	28.1 / 28.3
1M	133.5 / 135.0
3M	436.0 / 428.0
6M	813.0 / 815.0
9M	1192.0 / 1196.0
12M	1566.7 / 1570.0

対ドル基準レートは、6.4712と前週末比-32pipsのドル安元高、対円基準レートは5.7991と同-390pipsの円安元高と、対ドルでは6.46を挟む狭いレンジ内での設定が続いた。国内市場は米雇用統計への注目が集まる中で月末に向けたドル高は限定的となったものの、7月になると新型ウィルス変異種による感染再拡大による世界経済減速懸念による中国経済への影響を懸念した元安予想が増えたことからドルが底堅く推移。

先物は、四半期末要因による人民元短期資金の金利変動は限定的となり、米金融政策の先行きを占う米雇用統計を控えていることもあって、スワップ幅はやや拡大したものの1年物も1500台半ばでの小動きに終始した。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.33%		2.10%
6M	2.39%	2.55%	2.15%
9M	2.44%	2.66%	2.19%
1Y	2.48%	2.74%	2.21%
3Y	2.72%	3.11%	2.40%
5Y	2.89%	3.36%	
7Y	3.03%	3.54%	
10Y	3.17%	3.72%	

スワップ金利も債券利回りの低下を受けた低下が続いている。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドは、国債利回りの低下が限定的となる一方でスワップ金利が低下を続けたことから小幅ながら縮小を続けている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。